

## 院長からのメッセージ



第2号から当院の認定看護師・特定医療行為認定看護師の紹介をしております。医師には総合的な医療を提供する総合医をはじめ、皆様がよくご存知の専門分野があり、病院紹介やホームページ等にも掲載されております。看護領域においても特定の分野あるいは医療行為に熟練していることの証明として、日本看護協会が認定する制度があります。当院では現在15名がそれらの資格を取得して勤務し、総合的な看護をしながら専門性を発揮しております。病院には医師・看護師のほかたくさんの医療資格を持った職員が勤務し、力を合わせて求められる医療の実践を心がけております。常勤・非常勤合わせて549名の当院メンバーが協力し、皆様の健康維持に貢献できたら幸いです。

## 自然災害、特に風水害に対する当院の対応

令和3年5月20日から

警戒レベル  
4

避難指示で必ず避難

避難勧告は廃止です

警戒レベル	新たな避難情報等	これまでの避難情報等
5	緊急安全確保※1	災害発生情報 (発生を確認したときに発令)
4	避難指示※2	避難指示(緊急) ・避難勧告
3	高齢者等避難※3	避難準備・ 高齢者等避難開始
2	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	早期注意情報 (気象庁)	早期注意情報 (気象庁)

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。  
※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることとなります。  
※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じて自らの行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら主体的に避難するタイミングです。

- 警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。  
**警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはいけません！**
- 避難勧告は廃止されます。これからは、**警戒レベル4避難指示で危険な場所から全員避難**しましょう。
- 避難に時間のかかる**高齢者や障害のある人は、警戒レベル3高齢者等避難で危険な場所から避難**しましょう。

内閣府(防災担当)・消防庁

2020年7月熊本豪雨のように、大型台風や、広域豪雨、集中豪雨、ゲリラ豪雨等による河川の氾濫、洪水などの自然災害が頻繁に起こるようになりました。当地でも1993年夏、鹿児島県を襲った集中豪雨や台風による河川の氾濫や土砂崩れなどで、死者・行方不明者121人(霧島市でも17人の死者)と大きな被害があり、天降川/霧島川に挟まれた当院は周辺の道路/橋が寸断され孤立した経緯があります。

今年度は梅雨入りが連年より1カ月早く、梅雨の期間が長くなり、土砂災害、河川の氾濫などによる風水害が懸念されます。

当院では**警戒レベル3(高齢者等避難)の段階で災害警戒本部**を、**警戒レベル4(避難指示)の段階で災害対策本部**を設置し、院内外の災害体制を整えます。病院自体の風水害の影響は少ないと思われませんが、外来通院中の患者様や通勤職員の安全確保の為に予約変更や診療の延期/中止などの判断を迅速に行い、ホームページや報道機関を通じて通知します。また、被災者が多数出た場合に備え、日当直医や看護師の増数、緊急入院病床の確保を計画し救急医療体制を整えます。

また、数は限られていますが、病院に来られて帰宅困難となった患者様やご家族、または通院困難となる事を避けて早期に受診された患者様に備え、待機場所や食料の確保も準備します。なお、一般市民の方々の避難施設ではありませんのでご注意ください。

## 新病院建設へ 進行中

2021年3月に新病院の基本設計が終わり、次期実施設計へ向けて6月現在、業者選定の発注準備中です。実施設計は設計業者と工事受注業者(ゼネコン)が一体となるECI方式で行います。

# 認定看護師・特定医療行為認定看護師のご紹介

当院には、ある特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を有する者として、看護協会が認定した、11分野15名の認定看護師がおります。また38種類の医療行為について、医師の具体的な指示が出る前に自らで行える特定行為看護師が3名おります。今回は**皮膚・排泄ケア**、**創傷管理認定看護師**をご紹介します。

## ● 皮膚・排泄ケア認定看護師



横山美葉子

私はストーマ患者さんとの関わりがきっかけとなり、認定看護師になりました。ストーマのみではなく、皮膚・排泄ケア分野の患者・家族の力となれるように努力していきます

皮膚・排泄ケア認定看護師は、WOCとも呼ばれており、WはWound:創傷、OはOstomy:人工肛門・膀胱等、CはContinence:失禁管理を意味しています。褥瘡(床ずれ)や糖尿病の壊疽などの創傷管理、人工肛門・人工膀胱のケア、胃瘻や気管切開などの創管理、尿や便の失禁ケアなどについて実践、相談や指導をしています。

以上のように、皮膚・排泄認定看護師の活動は、多岐多様にわたり、問題を抱えている患者・家族をサポートするだけでなく、患者さんに関わる院内外の看護師や介護者への関わりも大切にしております。

特定看護師は、従来の「患者さんの状態を医師に報告→医師の具体的な指示→医療行為の実施」という流れから、医師等があらかじめ作成した手順書をもとに特定の患者さんに対し、手順書記載の範囲内で医師の報告や具体的な指示を仰ぐことなく特定の医療行為を行うことができ、迅速な患者対応と医師負担軽減になります。

**創傷管理を修了した特定看護師**は、褥瘡(床ずれ)や手術部位感染創などに対して、医師の包括指示を受けて陰圧閉鎖療法(創を陰圧にして治癒を早める)や、壊死組織の除去などを行います。

## ● 特定医療行為 創傷管理認定看護師



浦底珠恵

私が、創傷を抱える患者様と関わることで大切にしていることは、早期に創傷が治癒することもですが、在宅や地域の病院へと転院となった時にも安心して治療ケアが継続していけるような連携を心がけています。少しでも、患者様、ご家族のお力になればと努力していきます。

## ● 褥瘡対策チーム 2回/月

感染管理専門医、皮膚排泄ケア認定看護師、特定医療行為創傷管理認定看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士

褥瘡を持つ、または出来やすい患者さんの多くは、栄養が悪く痩せていて、自分で動くのが困難。そして褥瘡はとても痛い。そうならないようにチーム全力で知恵と技術を駆使し、患者さんの笑顔を目指しています。



医事課 管理 薬剤師 創傷 WOC 医師 薬剤師  
課長補佐 栄養士 管理 (ICD)

※理学療法士・作業療法士は多忙で集合写真撮影に間に合わず

## 褥瘡発生率(%)



チームの活動により院内褥瘡発生率は2015年度0.73%から2019年度0.31%まで半減しています。全国自治体病院2019年度調査(全国154病院)では褥瘡推定発生率は0.4%~1.9%です。統計手法が異なり単純に比較はできませんが、当院の発生率0.3%は少ない方と思われ、チーム医療の貢献が示されています。

褥瘡はつらいことが事が最も需要です。その為には褥瘡のリスクを適切に評価し、褥瘡の発生を予測し、予防のための様々な対策を立てます。当院では量的リスク評価法として、「知覚の認知」「湿潤」「活動性」「可動性」「栄養状態」「摩擦とずれ」の6項目で評価するブレデンスケールと、「自力体位変換能力」「病的骨突出」「浮腫」「関節拘縮」の4項目で評価するOHスケールを使用しています。また、褥瘡の評価としてはDESIGN-Rを使用しています。医師・看護師の他、薬剤師、栄養士、理学療法士、作業療法士などが各自の専門的見地から予防や対応策を提言し、患者様のより良い療養環境の提供に努めています。

## 職員募集

看護師、看護助手各2-3名、薬剤師1名、医療クラーク2-3名を募集中。

詳しくは病院HPをご覧ください。本田事務長、濱崎事務次長、または坂元総務課課長補佐にご相談下さい

☎ 0995-42-1171, FAX0995-42-2158

## 編集後記

市民の皆様タイムリーでわかりやすい話題提供や当院のご紹介を考え2021年4月から広報誌を刷新しています。内容のご希望があれば下記メールアドレスへどうぞ。  
hayato-mc@hayato-mc.jp